

平成25年度

島根大学教育学部附属学校園研究紀要

豊かな「社会生活」を創造する幼小中一貫教育の追究

豊かな「学び」をつくる子どもの育成 ～学びを拓く子どもの姿を求めて～

2013. 6

島根大学教育学部附属学校園

はじめに

附属学校部長 舟 木 賢 治

本附属学校園では、平成15年度から幼小中一貫教育に取り組み、豊かな「社会生活」を創造する人間の育成を目指して教育研究を行ってきました。

平成20年度からは、幼小中一貫教育体制の完成を平成25年度に見据え、研究主題「豊かな『学び』をつくる子どもの育成」を設定して教育研究に取り組んできました。

平成20年度の研究「子どもの学びをとらえる」では、教師が子どもの思いや願いを把握し、それを保育・授業の構想や展開に生かすことの有効性を明らかにすることができました。平成21年度からは「確かな学力」の育成を目指し、思考力・判断力・表現力の育成に焦点を当て、幼小中一貫教育における11年間のつながりを意識した教育研究を行ってきました。その中で、保育・教科の枠組みを超えた子どもの発達段階の特性がみえてくるとともに、思考力・判断力・表現力を育て高めるには子ども同士のかかわり合いや教師のはたらきかけが重要であることが明らかになってきました。実際に、思考力・判断力・表現力を育成するために、子どもにかかわり合いをもたせたところ、かかわり合いが思考力・判断力・表現力の育成に有効にはたらくことが明らかになりました。本学校園では、このような思考力・判断力・表現力を育て高めたりするためのかかわり合いを「学び合い」と定義し、研究を深めてきました。また、子どもの成長・発達に応じた対応を行うために、教育研究ブロックとして、初等前期（幼から小2）、初等後期（小3～小5）、中等部（小6～中3）を設定し、保育・教科でとらえた思考力・判断力・表現力を教育研究ブロックごとに整理し、これを一貫教育カリキュラムに盛り込むことができました。さらには、思考力・判断力・表現力の評価の在り方についても提案することができました。

平成24年度からは「学びをいかす」ことに焦点を当て、研究副題「学びを拓く子どもの姿を求めて」を設定し、思考力・判断力・表現力の育成のための研究を一層深めることができました。「学びを拓く」とは、これまでに学んだことをいかしながら、新たな学びをつくることと定義し、そのような「学びを拓く子どもの姿」を追求してきました。「学びを拓く子どもの姿」の追求は、子どもたちが附属学校園における11年間の一貫教育を通した学びを礎として、将来において協働的かつ自律的に行動していける力を身につけて欲しいという願いをもって教育に取り組んできた本附属学校園の幼小中一貫教育の最終課題であるといえます。

幼小中一貫教育の完成年度に当たる本年度は、昨年度に引き続き、「学びを拓く子どもの姿」をさらに追求するとともに、これまでの研究成果を総括し、本学校園における幼小中一貫教育の取組についての出版を予定しています。

本年度の研究発表協議会は、昨年度11月の開催から時間的余裕のない中での開催となりましたが、保育・授業の設計にあたっては、昨年度と同様、学部教員と附属学校研究部の教員が熱心に協働しました。

本年度も、島根県と松江市の教育委員会や学校から、諸先生方にお越し頂き、ご指導賜りましたことに深く感謝申し上げます。昨今は、大学のミッションの再定義が求められるというように、大学の果たす役割が厳しく問われております。このような中で、島根大学教育学部附属学校園は、今後も地域との連携を一層深め、現代的教育課題への取組や地域貢献を推進していく所存です。皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

目 次

幼小中一貫教育研究の最終年度に当たって	1
本学校園 幼小中一貫教育について	3
教育研究総論	11
保育・教科等の取組	
• 保 育	17
自ら考え、工夫し、伝え合う力を育む保育	
• 国 語	32
学び合いの中で自らの読みをつくりあげる国語学習	
• 社 会	47
子どもの発達段階に即した社会認識の育成を目指す社会科学習	
— 社会生活を豊かにする思考力・判断力・表現力を育てる学び合いの在り方 —	
• 算数・数学	62
豊かに考え、表現する算数・数学科学習	
— 学び合いの中で、数学的な思考力・判断力・表現力を高める授業づくり —	
• 理 科	77
科学的思考力を育む学び合いの理科学習	
— 学びをいかす子どもの姿を求めて —	
• 生活科	92
自分自身の成長に気付き、くらしを豊かにしていく生活科学習	
— 学び合いの中で気付きを広げ深める —	
• 音 楽	101
学び合いの中で思考力・判断力・表現力を育む音楽科学習	
• 図画工作・美術	116
豊かな造形体験をいかし、自分らしい表現を追求する図画工作・美術科学習	
— 思いをつかみ伝え合う中で思考力・判断力・表現力を育て高める —	
• 体育・保健体育	131
運動の心地よさを味わわせ、学び合う中で技能をのばす体育・保健体育学習	
• 技術・家庭科	146
生活を工夫し創造する能力を育む技術・家庭科学習	
• 外国語活動・英語	162
学び合いの中で、思考力・判断力・表現力を育てる授業の在り方	
— 学びをいかす子どもの姿を求めて —	
• 総合的な学習の時間	177
「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」のある追求によって	
自分の生き方を考える総合的な学習の時間の在り方	
• 子ども支援	194
一貫教育における子ども支援の取組	
— 子どもの特性を支援に生かすには —	

島根大学教育学部
附属学校園の取組

～基本的な考え～

保育・教科等の取組

おわりに

本附属学校園の一貫教育研究は、平成20年度に本格実施してから6年目となり、いよいよ1クールとしてのまとめの段階を迎えました。この間、本学校園では、教育研究の主テーマに「豊かな『学び』をつくる子どもの育成」を掲げ、11年間を見通して、子どもたちの「学び」を視点にし、それぞれの発達課題に応じた「学び合い」の姿を追い求めてきました。

初年次は、「子どもの学びをとらえる」と設定し、一貫教育として子どもたちに育てたい力を明確にし、その育成のために、まずは、子どもたちの思いや願いを「とらえる」ことからスタートしました。具体的には、「確かな学力」の定着を目指して実践をすすめ、四年次からは、11年間を見通した全ての教育活動において、子どもたちに育てたい資質・能力として8つに整理・統合しました。その8つの資質・能力には、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」が包含されており、本学校園の教育研究は、これまで幾つかの変遷を経てきましたが、初年度当初から今日に至るまで「思考力・判断力・表現力」の育成を目指した保育・授業実践を継続的、重点的に深めてきたことは事実です。

また、昨年度末の本学校園の子どもたちの実態調査では、「学び合い」「追及力」「学びをいかす」ことなどが、「思考力・判断力・表現力」と深くかかわる「論理的思考」に対して影響関係がみられ、弱いながらも影響を及ぼしているとの結果を得ました。本学校園における保育・授業づくりのキーワードである「学び合い」や「学びをいかす」ことが、子どもたちの「思考力・判断力・表現力」を高めることに、いささかでも確かに結びついているところに意を強くしています。

ところで、こうした「学び合い」「追及力」「学びをいかす」こと等は、いずれも学習する主体者としての学びを拓く子どもたちの姿そのものです。保育・授業において、それは、子どもたちが学習主体となって教材等に立ち向かい新たな価値観や世界観を自らが獲得していく姿だと思います。そのような子どもの自発性や自主性を尊重する子ども主体の学びの場の追究にあって、そこに教師の指導的役割を軽視するものではありません。むしろ、教師による積極的なはたらきかけによって、子どもたちの能動的な「学び合い」や自主的活動等が呼び起こされ、学びが深まっていくと考えます。本研究発表協議会等の保育・授業では、子どもたちの「学び合い」の姿に教師がどうからみあっているか、その姿にまでまなざしを注いでいただければ嬉しく思います。

最後になりましたが、本研究発表協議会の開催及び本研究紀要をまとめるに当たり、県教育委員会関係等からの本研究発表協議会助言者の先生方に懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました。心より厚くお礼申し上げます。これまでの本附属学校園の豊かな「学び」をつくる取組は、一つの節目を迎えますが、なお課題は多くみられ、これからもその歩みを止めない実践的追究が求められます。今後とも、本附属学校園の研究・実践に対しまして、諸先生方の温かいご理解とご批正をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成25年6月

学校園長 佐々有生

◆ 共同研究同人一覧（附属学校園教職員並びに教育学部教員） ◆

島根大学教育学部附属学校長 舟木 賢治
 島根大学教育学部附属学校園長 佐々 有生
 島根大学教育学部附属中学校副校長 齋藤 英明
 島根大学教育学部附属小学校副校長 松本 真理
 島根大学教育学部附属幼稚園副園長 赤木 寛子

【保育】

[幼] ○内田 祐 加納 美紀 福井 智子
 井上結美子 南海 睦 福島由美子
 根本 美幸 福光 裕子
 [学] 西田 忠男

【国語】

[小] 中村 紀恵 喜多川昭博 恩田 一穂
 [中] ○永野 信吾 籠橋 剛 鳥屋尾慎人
 [学] 田中 耕司 富安 慎吾

【社会】

[小] 和田 律央 大坂 慎也 藤原 良平
 [中] ○岡田 昭彦 原 義昭 前島美佐江
 木村 佳則
 [学] 加藤 寿朗

【算数・数学】

[小] 仙田 淳一 徳永 勝俊 金築奈々恵
 [中] ○後藤 幸広 安野 洋 大谷 由香
 [学] 御園 真史

【理科】

[小] 伊藤 英俊 深田 剛生 釜田美紗子
 関野 淳也
 [中] ○高橋 里美 大山 朋江 園山 裕之
 [学] 松本 一郎 栢野 彰秀

【生活】

[小] ○釜田美紗子 和田 律央
 [学] 川路 澄人

【音楽】

[小] 神門 洋子 能海 麗美
 [中] ○小村 聡 椎木 千鶴
 [学] 藤井 浩基

【図画工作・美術】

[小] ○三桐 摂夫 矢野美穂子
 [中] 錦織 秀行
 [学] 有田 洋子

【体育・保健体育】

[小] ○小草 康弘 小林 敏朗
 [中] 柏木 裕至 藤田 壮志 岡田 歩美
 [学] 廣兼 志保 西村 覚

【技術・家庭】

[小] 竹吉 昭人
 [中] ○後藤康太郎 井上富美子
 [学] 橋爪 一治 正岡 さち

【外国語活動・英語】

[小] 加藤 君江
 [中] ○高田 純子 須田 香織 岩崎 香織
 和崎 公与 片寄メーガン
 [学] 縄田 裕幸 猫田 英伸

【総合的な学習】

[小] 喜多川昭博 竹吉 昭人
 [中] ○錦織 秀行
 [学] 深見 俊崇

【子ども支援（特別支援教育・養護教諭）】

[幼] 福島由美子
 [小] 野津 道人 板倉 真子 小松原知子
 小川真由子
 [中] ○宮崎 紀雅 三浦 睦美 片寄翔一郎
 古瀬 知美
 [学] 原 広治

〈平成24年度転出者〉

[幼] 阿武 麻衣
 [小] 永井 孝夫（副校長） 和田 倫寛（社）
 福島 歩惟（外） 飯島 湾（支）
 [中] 竹崎 葉子（社） 奈良井 正（支）
 川井 史生（国） 岡 伸彦（音）
 [学] 長澤 郁夫（技）

○：主任 [幼]：幼稚園 [小]：小学校 [中]：中学校 [学]：学部共同研究員

平成25年6月 印刷

平成25年6月 発行

発行 島根大学教育学部附属学校園

島根大学教育学部附属幼稚園 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属小学校 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属中学校 〒690-0824 松江市菅田町167-1

附属学校園 <http://www.shimane-fuzoku.ed.jp/>

印刷 (有)木次印刷

〒699-1312 雲南市木次町山方630-5
